「帯江研」だより

Vol.5
2021/ 9 発行

帯江鉱山研究会事務局
岡山市東区益野町295-15 坂本昇方
E-メール
obieken913@yahoo.co.jp

鍖（からみ）の再利用

鍖煉瓦の平均寸法は、小口の上辺が120mmで下辺は140mm。長手は上辺270mm、下辺290mm。高さ105mm。これだけ丁寧に造られたものは珍しい。

1884(明治17)年から1891(明治24)年まで、帯江鉱山は三菱吉岡鉱山の支山であった。しかし実際に稼業したのは帯江村の戸長や村長を務めていた古谷亀賑治（こたにきしんじ）ら３名で、古谷らは鉱石を1890年(明治23)年４月までの５ヶ月間に少なくても９回、「廃鉱」として住友別子鉱山惣開（そうびらき）製錬所に送っている。「廃鉱」としたのは、1873(明治６)年に発布された「日本坑法」の第９条「有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ス可シ」に抵触することを恐れたからで、当時の三菱社に帯江の面倒まで見る余裕はなく、帯江にはまだ製錬施設がなかったと思われる。

帯江鉱山に製錬所を建てたのは坂本金弥である。『中庄村誌(中村常三郎編、1933・昭和８年中村巌発行)』によると、製錬所は都窪郡中庄村大字大寺前(現在の倉敷市中庄)にあり、製錬は溶剤を使う湿式ではなく、高温加熱の乾式であった。製錬所ではまず、銅鉱石を円筒高炉で鈹（かわ）と滓（かす）に分け、つぎに鈹を焼鈹炉（しょうひろ）で型銅と滓に分け、滓は捨てた。滓はスラグ(slag)、のろとも呼ばれる。『広辞苑』第７版(岩波書店、2018年)は「スラグ」をこう説明する。「金属の溶融・精錬・製錬の際に生じる複合酸化物。二酸化ケイ素・酸化カルシウム・酸化マグネシウム・酸化アルミニウムその他から成る。製鋼スラグでは鋼滓（こうさい）、非鉄製錬では鍖（からみ）ともいう。のろ」。1901(明治34)年に創業した官営製鐵所(現在の日本（にっぽん）製鉄九州製鉄所八幡地区)で出された鋼滓は戸畑の海面埋立にも使われ、鋼滓や石炭殻などを運んだ鉄道は「炭滓線（たんさいせん）」「くろがね線」と呼ばれている。

製錬(smelting)とは鉱石を還元して金属を取り出す過程をいう。しかし取り出された金属の純度が高いとは限らない。そこで不純物を取り除き、抽出したい金属の純度を高める。この工程が精錬(refining)である。refiningは金属に限らず、不純物を取り除く工程そのものを指す言葉でもある。鉱山で製錬を行うことを山元（もとせいれん）製錬、複数の鉱山から鉱石を集めて製錬することを買鉱（ばいこうせいれん）製錬という。山元製錬を行った鉱山には鍖構造物があり、惣開製錬所は買鉱製錬所でもあったのである。

倉敷中庄自動車学校の背後に布積された「鍖煉瓦（からみれんが）」は製錬所の壁、その南西斜面は半球型の鍖が並ぶトロッコ基地の遺構である。半球型の鍖を並べたのは道床を造るためであったと考えられ、大寺周辺に多数現存する。鍖煉瓦は全国各地に現存するが、半球型をこれだけ大規模に再利用した例は帯江以外では認められない。希少価値の高い産業遺産である。　(小西伸彦)

半球型の鍖は直径約350mm、高さ約250mm。運び廃棄しやすいように半球型にした例はあるが、大規模な再利用例は帯江鉱山だけかもしれない。

病が昂じて“シャーロキアン”に

帯江と私　高橋義雄

昭和25年～30年頃の私は帯江鉱山廃墟(現倉敷市中庄一帯)の裏山で遊びに夢中であったが、遊びの次は読書である。

自宅からはるか遠くの現・大原美術館分館(同市中央町１丁目)前にあった岡山県立総合文化センター倉敷分館の図書館まで自転車を駆る。当時、公共図書館はないため、倉敷まで通ったものである。しかも同館には児童用図書は少なく、やむなく大人用図書を借りて、読む。自然に、早熟な子供になってしまう。偶然児童図書として、英国の探偵作家コナン・ドイル作の『バスカビル家の犬』などの探偵小説を発見して欣喜雀躍（きんきじゃくやく）。個性的で知的な探偵物語に没入する。私は登場人物等の詳細なメモを作成して感想を書く。「伏線」と言う言葉を初めて知ったのも、今では懐かしい。

ドイル作品の研究者を、「シャーロキアン」と呼ぶ。私も病が昂じて「名探偵シャーロック・ホームズを救った玉島の柔術家」と題する史伝を日本ホームズクラブに寄稿したところ、「シャーロキアン」に認定され、伝統ある機関誌「ホームズの世界」に掲載された。日本の先駆者で第一人者は戦後大蔵省次官として、かの有名な白洲次郎とともに、GHQ(連合国軍総司令部)と丁々発止と渡り合った長沼弘毅である。長沼弘毅は旧制静岡高校在学中、旧制六高から転勤した英語講師に英語を学び、英語が好きになったという。彼は午前中、大蔵省の仕事を行い、午後からは『ホームズ物語』の英文を考究したという。私は『中國銀行五十年史』の編纂途次の昭和53年に大蔵省内閣文庫を訪問し、資料調査を行った。その時、資料室で長沼弘毅の原稿をガラス越しに拝見したとき、興奮を抑えられなかった。あの原稿はどうなったのだろうか。今でも気になる。

最近、私は僥倖（ぎょうこう）にも、コナン・ドイルの友人(バルトン－御雇外国人として東大で上下水道学を教えた。そして岡山を含む日本の10数カ所、台湾の水道設計もした。コナン・ドイルに柔術を伝えた人)の子孫が岡山に居住していることを知り、親交を重ねている。　(帯江研会員)

◇近代岡山の偉人伝で講演

連続シンポジウム「殖産に挑んだ人々」の７回目（山陽放送学術文化・スポーツ財団主催）が８月19日、岡山市北区天神町のRSK能楽堂ホールであり、帯江研役員・坂本昇氏が帯江鉱山（現倉敷市中庄一帯）オーナーだった坂本金弥を紹介した＝写真。

公益財団法人山陽放送学術文化・スポーツ振興財団提供

連続シンポは三菱商会が経営の吉岡鉱山（現高梁市吹屋）開発に携わった近藤廉平（鉱山事務長など歴任）も取り上げられ、横浜市歴史博物館学芸員・吉井大門氏が「日本郵船社長前夜の近藤廉平」と題し講演。吉井氏は廉平について、「吉岡鉱山に着任以来、坑道開削や会社規則整備に尽力し、鉱山発展の礎を築いた人物」と評価した。

この後登壇した坂本氏は「金弥が鉱山業に手を染めたのは帯江の権利裁判に関与したのが端緒」。こう話した上で、「莫大な財を成し、帯江からあがる豊富な資金を基に、明治30年代にかけて数々の事業を展開。鉱山の機械・近代化だけでなく、新聞人、代議士と幅広く活躍した」と、事績の掘り起こしに務めた。

新型コロナの感染拡大を受け、会場は無観客で実施し、視聴者にはライブ配信された。

◇帯江鉱山研究会の報告

2021年６月13日予定の総会は中止が決まり、５月31日、書面表決による議事に変更した。

書面表決の賛否は小西代表を除き、13名全員が賛同。

会則の変更では、監事・難波俊成氏の監査役明記のほか、新会則を決定したので改めて報告する。

▽帯江鉱山研究会規約

第１条　（名称）本会は、帯江鉱山研究会（略称・帯江研）と称する。
第２条　（所在地）
本会の所在地は、岡山市東区益野町295-15　坂本昇宅に置く。
第３条　（目的）
本会は、帯江鉱山の研究・調査を通じて鉱山の実態解明を目指すとともに、その調査成果を地域社会へ還元することを目的とする。併せて、会員相互の交流の場とする。
第４条　（活動内容）
本会は、前条の目的を達成するために以下の活動を行う。
・年２回、会員による調査成果の例会報告会を開催。
・地域社会へ還元の場として随時、講演会や遺跡探訪などを実施。
・各地の資料館や研究グループらと鉱山情報の提供、交流を図る。
・その他、本会の目的を達成するために必要な事業を行う。
第５条　（会員）
本会の目的に賛同した有志であることを入会の条件とする。
第６条　（役員）
本会には、次の役員を置く。
代　　表　　小西伸彦
事務局担当　　戸板啓四郎
同　　坂本昇
監　査　役　　難波俊成
第７条　（役員の選出）
本会の役員は、会員の互選により選出する。
第８条　（役員の任期）
役員の任期は、９月13日から翌年９月12日までとし、再任を妨げない。
第９条　（会費）
会費は年間１千円とし、これを財源として本会の運営費用に充てる。
また、企業や文化財団等に文化活動助成金の支援を仰ぐ。
第10条　（規約改正）
この規約は、会員の過半数の同意をもって改正することができる。
第11条　（設立年月日）本会の設立年月日は令和２年９月13日とする。
第12条　総会の運営方法は年１回開催、総会の議長は代表とし、代表が総会を招集する。なお、財産管理の会計報告は年１回総会において行う。
附則
この規約は、令和２年９月13日から施行。
令和３年５月31日に改定

また、事業報告として20年度活動報告の概要は９月13日の設立総会以降、感染拡大するコロナ禍の影響を受け、第１回例会が中止・順延となったほか、20年度末までに役員会３回開催と「帯江研」だより１、２号発行をするに留まった。

20年度事業についても参加型行事が出来ず、現在（８月31日）までのところ４、５回目役員会、「帯江研」だより３号・同臨時号４号発行に終始した。そうした流れ中で、会は21年度事業・案として今後は当面“紙”による情報発信を心掛けていく。季刊「帯江研」だよりは勿論のこと、同臨時号発行に尽力するほか、編集委員会を設けて毎年度末を目途に刊行予定の「帯江研冊子」づくりに注力していくことにしている。

会計報告は以下の通り。

20年度収支決算

収　入		
項　目	金　額	備　考
会費	14,000	￥1,000　会員 14 人
文化活動助成金	1,000,000	東京・ストラグルに依頼予定
受取利子	3	
合　計	1,014,003	

支　出		
項　目	金　額	備　考
事務局開設費	108,364	帯江研印鑑、パソコンセットアップ、無線 LAN ルーター等
例会運営費	8,176	帯江研会場費、茶代、執筆者土産等
帯江研だより作成費	138,600	チラシ代、寄稿原稿料
事務局雑費	32,420	インク代、高梁川送付、郵便代
帯江研資料代	15,205	高梁川抜刷、古書、駐車場代、コピー代
合　計	302,765	

残　高		
計	711,238	21 年度に繰り越し

21年度収支予算案

収　入		
項　目	金　額	備　考
20 年度繰越金	711,238	
会費	14,000	￥1,000　会員 14 人
文化活動助成金	1,000,000	東京・ストラグルに依頼予定
受取利子		
合　計	1,725,238	

支　出		
項　目	金　額	備　考
例会運営費	20,000	帯江研会場費、茶代等
帯江研だより作成費	200,000	チラシ代、寄稿原稿料、臨時号製作代等
事務局雑費	40,000	会議費、インク代、郵便代等
中庄事務局費	100,000	
帯江研資料代	20,000	古書、関係資料、コピー代等
冊子製作費	600,000	
予備費	745,238	
合　計	1,725,238	

集まられぇ！「帯江研」

銅山や産業遺産に高い関心を持つ研究者、歴史愛好家らが集まって帯江鉱山研究会が出来ました。2020年秋に岡山市内で産声を挙げた会で、略称は「帯江研」と言います。興味のある方、集まられぇ！「帯江研」。

いま会では、皆さんの参加を大いに歓迎していますよ。